

閉塞性大腸癌で大腸ステント挿入後に手術を受けられた患者さんの
診療情報等を研究に利用することについての
お知らせ（後向き観察研究）

九州医療センターでは、九州医療センター倫理審査委員会 の審査を受け、病院長承認のもと、下記の臨床研究を実施しております。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することができますのでお申出下さい。

当該研究に診療情報等が用いられることについて、患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の【相談窓口】までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。なお、研究の進捗状況によっては、あなたのデータを取り除くことができない場合がございますので、ご了承ください。

研究課題名	閉塞性大腸癌に対する大腸ステント挿入後の治療成績
研究実施機関の 研究責任者	九州医療センター 消化管外科 田尻裕匡
研究の背景	閉塞性大腸癌は緊急手術を要する場合が多く、術後合併症や人工肛門造設率が高いことが課題とされてきました。近年、自己拡張型金属ステント（SEMS）を用いた Bridge to Surgery (BTS) が普及し、腸管減圧と待機的切除が可能となったことで、短期成績の改善が報告されています。一方で、長期予後や再発リスクに関するエビデンスは限定的であり、適切な治療戦略の確立が求められています。
研究目的	本研究の目的は、閉塞性大腸癌に対して SEMS を用いた BTS 後の根治切除例を対象に、短期成績および長期予後を検討し、その有効性と安全性を明らかにすることです。これにより、術後合併症や再発リスクに与える影響を明確化し、治療方針決定に資する科学的根拠を提供します。適切な適応や至適タイミングを検討することで、患者予後の改善に寄与することが期待されます。
研究実施期間	【調査対象期間】2013年4月1日から2023年9月30日までに大腸ステント留置後に手術を受けた研究対象者の術後（2025年9月30日まで）までを調査します。 【研究期間】倫理審査委員会承認後から西暦2026年3月31日まで
研究の方法	【対象となる方】 2013年4月1日から2023年9月30日までに大腸ステント留置後に手術を受けた方。 【調査方法】 診療録から情報を収集して、解析します。

	<p>【研究に利用する診療情報】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>年齢 <input checked="" type="checkbox"/>性別 <input checked="" type="checkbox"/>身長 <input checked="" type="checkbox"/>体重 <input type="checkbox"/>写真【部位：　　】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>病歴 <input checked="" type="checkbox"/>既往歴 <input checked="" type="checkbox"/>治療歴【ステント挿入日、手術日、退院日、術後合併症の有無、術後再発の有無など】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>予後【手術から 2025 年 9 月 30 日時点まで】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>臨床検査データ【腫瘍マーカーなど】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>画像データ【 CT、下部消化管内視鏡など】</p> <p><input type="checkbox"/>アンケート【　　】</p> <p><input checked="" type="checkbox"/>有害事象【副作用・合併症の発生等】</p> <p><input type="checkbox"/>その他【　　】</p> <p>【情報等の管理】</p> <p>●情報の管理責任者 九州医療センター 消化管外科（医師）（田尻裕匡）</p>
個人情報の取扱い	情報等には個人情報が含まれますが、利用する場合には、お名前、住所など、個人を直ちに判別できるような情報は削除します。研究成果は学会や学術雑誌で発表されますが、個人を直ちに判別できるような情報は利用しません。
研究組織	<p>この研究は、当院のみの単施設研究です。</p> <p>相談窓口：九州医療センター 消化管外科 (職名：医師) 田尻 裕匡 〒810-8563 福岡県福岡市中央区地行浜 1-8-1 電話番号 092-852-0700</p>